
Torture tragedy

怖気忘郷

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

T o r t u r e t r a g e d y

【Nコード】

N 1 3 1 1 L

【作者名】

怖気忘郷

【あらすじ】

主人公は1人の少年、レイ・ヴァルアニス。
その少年が何故か渡り歩ける拷問道具の団体、

【T o r t u r e t r a g e d y】に入るように言われた。

断ることが出来なかった彼は主の命令どおりに働く。

惨劇、拷問と言つ言葉で彼は罪悪感を覚えるのだが……？

プロローグ Torture tragedy 渡り歩ける拷問道具

僕が……

どうして僕が7人目……？

どうして……

どうしてよ……

どうしてよ……！

どうして僕が7人目なんだよ……

教えて……

カミサマ……

「やあ、お坊ちゃん」

「はい？」

「君、Torture tragedyっていうの、知ってるかい？」

「いや……詳しくは知らないんですけど……」

「じゃあこっちにきな、教えてあげるよ」

近所のおじさんは僕の手を引っ張った。

そう、僕が……

T o r t u r e t r a g e d y の 7 人 目 だ と は 知 ら ず に ……

ブローグ Torture tragedy 渡り歩ける拷問道具（後書き）

Torture tragedy、翻訳すると惨劇 拷問です、

今のところ主様は出ませんね、はい。

まあ、少しですが残酷な場面あります。

キャラ名は後に話にまぎれて出ますので、

キャラ設定などは特に言いません（）

7人目

「いいかい、くれぐれも【Torture tragedy】には気をつけるんだよ。あそこは拷問する団体なんだ。」

そのくらい、7人目だから知ってる。

「で、そこには7人いるって言われてるんだけど、本当のところは6人なんだ。

で、1人ずつあってね、道具が。

いや、人が拷問道具なんだ。人間だけど人間じゃない。

1人目は棘だらけの拷問椅子、2人目は殺意の蝋燭、

3人目は爆破の鞭、4人目は鉄の処女、

5人目は雷以上の電気椅子、6人目は三角木馬、

で、噂だけど7人目は……」

コンコン

「ちょっとよろしいでしょうか」

「は、はい……」

カチャリ

「どうも、【Torture tragedy】の4人目ですが」

「ついにきてしまった……うちにも……」

「そうでなくて、皆様の噂どおり、7人になったんですよ」

「こうやってのこのこと来るのが不思議なんだよな。」

「で、その7人目がいないんですよ。」

7人目、先程も言ったがそれは僕を指している。

「そういうわけですので、では。」

パタン

だから、そうやってスタスタと帰るのが不思議なんだって。

僕は残酷なのが嫌いだった。

初めての拷問

そう、残酷なのが。

因みに僕は鋸を使うことが出来る。

普通に大工で使うのじゃなくて、

一目瞭然、列記とした拷問用の鋸だ。
ついでに新品。

主様が速攻で生きたまま、

僕の体に無理矢理入れたもの。

ミンナモソウダッタ。

違うところと言ったら、

自分から喜んで受け入れたコト、

それから、罪悪感がなかったコト。

でも、今更嘆いていても意味がない。

主様は優しく言った。

「お前は今日が初めてだな、

レイ・ヴァルアニス。

サークルシティの、奴を」

もう、やるしかない。

「おじさん、これ飲んで、喉、乾いてない？」

「有り難う。喜んで飲ませてもらうよ」

「あれ、眠く」

カクン。

実は、あれには睡眠薬が混ぜられている。
これで逆さ吊りにすれば。

よし、OK。

ゴメンナサイゴメンナサイ
ゴメンナサイゴメンナサイ
ゴメンナサイゴメンナサイ

ゴメンナサイ、カミサマ。

ゴメンナサイ、カミサマ。

「先日……ツエップリーズ家の人か」

朝の報道

朝の新聞

朝の恐怖

そして

朝の拷問

罪悪感が全てを縛る。

いつ解放されるか

いつまでも解放されないか

それはその時までいかないと分からない

そういうものだから

「レイ、貴方学校行かないの？もう……」

何ヶ月休んでると思ってるのよ……」

行かないに決まってる

主様

この人を

殺って

良いんだよね

殺って

鋸……ちゃんとあるね
無いと拷問にならない

鋸は又間から切るもの、
両方を取っ手がついているというもの。
前にも言ったと思うけど、
ちゃんとした拷問道具なんだから、
無いと意味が無い。

「!？」

鋸だけで驚くんだ。

へえ、面白いね。

いつのまにか罪悪感は消え、
代わりに快感を得ることが出来る。

これが拷問にして、本当の規則^{ルール}。

もう怖くない

だって

もう

狂気に

堕ちているから

国王の我俣

……とは言えど

1人のときでも充分に出来る。

だが、国王はどうかだろう。

昔、主様は国王の使いっぱしりだったらしい。
今は違うけど。

何故使いっぱしりじゃなくなったのか……

国王は我俣だった。

というより、今もその国王でさ。

拷問椅子持ってけだの飲み物買えだの
自腹で薬物買えだの……

色々と酷い話。

主様は耐えられなくなって、執事やメイド、
アイロン係や楽隊、更には女王様も味方につけ、

反抗した。

本来ならその時に刑を与えるはずだった。

国王はまたしても我俣が始まった。

刑を与えるな

まだ使いには不十分

という理由で刑を与えなかった。

勿論女王様は別。

愛しすぎた。

そして、国民はいまでも国王が嫌い。

それを倒すためにこの団体を作ったらしい。

僕も国王が嫌い。

けど、少し矛盾してる気がする……

いや、矛盾している。

だったら、何故他の民も殺^ヤるのか……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1311/>

Torture tragedy

2010年10月11日19時13分発行